

時代の証言者

エルビス・プレスリー、ザ・ビートルズ、マイケル・ジャクソン……。いち早く日本に紹介したアーティストは数えきれない。変わらぬ好奇心で、音楽と共に歩んだ80年。洋楽の伝道師は時代をどうみてきたか。

編集委員 永峰好美

「一度お目にかかりたい。連絡しろ」。ジャズ専門の音楽雑誌「スイングジャーナル」編集部から電報を受け取ったのは、1960年、24歳の時でした。東京・目黒の自宅に電話がない頃です。近所で電話を借りて連絡し、新橋の喫茶店で

音楽は愛 湯川 れい子 81 ①

ジャズに首ったけ私の青春

編集者と会うことになりました。

「あなたの投稿にたくさんファンレターが来ています。本格的に書いてみませんか？」。思いもかけないお誘いに、「そんなことができるのなら、ぜひ書かせてください」と飛びつきました。この編集者こそ、のちにジャズ評論家になる岩浪洋三さんでした。

△「スイングジャーナル」(1947〜2010年)

は、戦後日本のジャズ文化をリードした月刊誌。植草甚一、野口久光ら著名な文筆家を輩出した。

雑誌には「読者論壇」というページがあって、「湯川れい子」のペンネームで2回投稿、採用されました。詩を書くのが好きだった中学生の頃、占



「各人の自由な生き方に寄り添ってくれる。音楽には常に愛があります」(東京都内の自宅で)＝山岸直子撮影

い師につけてもらった名前です。

高校卒業後、当時のボーイフレンドに影響されて、黒人兵が集まる有楽町のジャズ喫茶通いをしていました。パップとか、アメリカで発売されたばかりの最新のモダン・ジャズのLPレコードを一生懸命聴いて、もう夢中になりました。

女優を志したものの、芽が出ず、米軍キャンプ回りに貿易会社の社長秘書、洋裁学校にも通いました。戦

時中に夫と息子を亡くした母は、早く私を嫁がせたいとの思いが強かった。一方で、何かを見つげようと思死にもがく私を、そっと見守ってくれていました。そんな時、好きなジャズで文章を書いてお金をいただける——こんなステキな話はありません。

当時の投稿を読み返すと、えらく生意気な文章を書いたものだと言汗が出ます。「私たちの歴史にはリズムが存在していないかっ

1936年(昭和11年)、東京都出身。本名・湯野川(ゆのかわ)和子。独立プロの女優を経て音楽評論家の道へ。ラジオ音楽番組のディスクジョッキー、エッセイストとして活躍。アン・ルイス、松本伊代らのヒット曲の作詞も手掛けた。「湯川れい子のロック50年」など著書多数。

た。日本のプレーヤーは上滑りのテクニクに走らず、謙虚に自分のものを作り上げてほしい」なんて調子です。反響があったのは、単に女の子が珍しかったからだと思います。文章の勢いから若いと推測できたでしょうから。

そしてまもなく、外国人ミュージシャンにインスピレーションを与える大きな仕事の機会がやって来ます。(この連載は、月々木曜日と土曜日に掲載します)

時代の証言者

1972年秋、ハワイの日系人プロモーター、ラルフ・ワグネルさんから突然電話があつて、11月にエルビス・プレスリーがホノルルでコンサートを開くので、必要なら200枚チケットを用意するとのお話でした。夢のようにつれしことで、すぐに鑑賞ツアーを企画し、ゲスト出演したテレビ番組「11PM」で参加者を募ったところ、テレビ局の電話回線がパンクするほどの反響がありました。

音楽は愛 湯川 れい子 16

胎教はロック DJ続行

翌73年1月、エルビスは、レビにかじりつがんで亡くなったハワイのシンガー・ソングライター、クイ・リーの遺族が創設した基金を応援、前年と同じホノルルで、チャリティ・コンサート「アロハ・フロム・ハワイ」を開催します。《史上初のコンサートの衛星生中継が行われ、30か国以上約15億人の日本では視聴率38%とも》

コンサートの1週間後にはライブ盤の発売が予定されていて、私はライナーノーツ(解説文)を頼まれていました。テープレコーダーを傍らに置き、自宅のテ



一人息子には、物心つく頃から音楽を聴かせて育てた(左)1977年、息子の有宏貴(ゆきひろ)と、湯川さん提供

レビにかじりつがんで亡くなったハワイのシンガー・ソングライター、クイ・リーの遺族が創設した基金を応援、前年と同じホノルルで、チャリティ・コンサート「アロハ・フロム・ハワイ」を開催します。《史上初のコンサートの衛星生中継が行われ、30か国以上約15億人の日本では視聴率38%とも》

コンサートの1週間後にはライブ盤の発売が予定されていて、私はライナーノーツ(解説文)を頼まれていました。テープレコーダーを傍らに置き、自宅のテ

いたエルビスが鮮やかによみがえっていました。値段は高かったのですが、2年の月賦を組んで購入しました。

そして、ビデオの存在を教えてくれたこの男性と半年ほど付き合いをして、私は結婚を決意します。エルビスがつなぐ縁で、73年8月にラスベガスで華式、結婚証明書にエルビスから証人としてサインをもらうことができました。今も書斎に飾ってあります。

子供が生まれたのは、結婚から3年後の40歳の時。子供がものすごく欲しかったので、卵管を広げる苦ししい治療にも耐えて……。ある日、愛船「ロックンロール号」で沼津沖に出て趣味の釣りをしていた気が悪くなり、妊娠3か月とわかった時は、本当にうれしかったです。

当時、ラジオ番組「全米トップ40」で毎週DJを務めていましたが、産前産後も休むことなく続けました。胎教で随分ロックを聴かせたことになりましたけれど、子供の生活が第一ではあっても、私自身の人生も犠牲にしたいくない。だから優先順位をきちんと決めて子育てと仕事を両立していたら、明確な意識を持っていたのは、多分高齢出産だったからだと思います。(編集委員 永峰好美)

湯川さんが、結婚子育てを巡るエピソードを語ってくれました。

▶動画はYOUTUBE